

センターだより

繋ぐ→支える→発信・リードする教育センター

第9号

平成29(2017)年2月14日発行
吹田市立教育センター
大阪府吹田市出口町2-1
TEL 06-6388-1455
FAX 06-6337-5412
メール s-educ@suita.ed.jp

平成28年度 吹田市立教育センター 教育研究報告会 御礼

平成29年1月25日(水)に吹田市文化会館メシアターにて、吹田市立教育センター 教育研究報告会を実施しました。午前中は保護者の方を対象に立石 美津子さんより『子どもも親も幸せになる』～テキスト母さんのすすめ～と題して講演を行い、225名のご参加をいただきました。

また、午後の教育研究報告会では、2つの分科会において、各学校園や小学校教育研究会、そして教育センターの研究グループなど、合計14の団体から、実践や研究の成果を報告いただきました。

各学校園から237名の教職員の参加がありました。



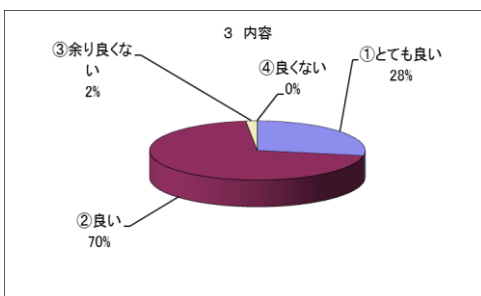
報告いただきました各団体におかれましては、発表の準備や資料の作成等、御協力いただきありがとうございました。また、当日の運営スタッフとして御助力いただいた先生方にも感謝いたします。

この報告会で発信いただきました研究成果を参加された教職員の方々を中心に、各学校園で共有し、未来の吹田の教育に反映できるよう、お願いします。



〈教育研究報告会アンケートより〉

★本日の報告会の内容はどうでしたか



アンケートの結果では、「とても良い」、「良い」合わせて98%以上の教職員から発表内容が良いとの回答をいただきました。

★今日の報告会の学び・感想等

- ・どの報告も、子どもの教育活動の充実につながるものばかりで良かったです。
- ・エコロジカルマップを実際に書き込みながら、発表を聞くことができたので、とても分かりやすかったです。
- ・幼稚園の報告では、スモールステップの積み重ねから大きな目標に向かっていくという連携性が大事ななど思いました。英語教育では教師が難しいと感じるのではなく、一緒に楽しもうという気持ちを持つことが大事なのかなと思いました。
- ・学研国語部の「マナブック」はとても参考になりました。系統表作成から実践レベルに上げる手立てとして有効だと思ったので、本校の研究推進に活かしたいと思えます。
- ・それぞれの団体が色々なことを研究されていて、勉強になりました。研究が途中の団体の来年度の研究報告も聞きたいと思いました。

保護者講演会(保護者啓発研修)「『子どもも親も幸せになる』～テキトー母さんのすすめ～」

講師としてお招きした立石美津子さんは、30年以上幼児教育に携わってきた一方で、自閉症と診断されたお子様を育てる一児の母でもあります。自らの子育てをとおり、またご自身が幼少期に体験してきた親からの子育てをとおり、「テキトー母さん」を生み出しました。

「テキトー」とは「いいかげん」「投げやり」という意味もありますが、ここで使われる「テキトー」とは「ちょうどいい」という意味です。

「完璧でいなきゃ。」「我が子をどこへ出しても恥ずかしくないいい子に育てなきゃ。」「自分もいいママでいなきゃ。」そう思って生きてきた立石さんが、ある出来事、ある日をきっかけに「テキトー」へと変わっていきます。

講演の中で、「しっかりしているからこそテキトー」という立石さんの言葉が印象深かったです。その一言に全てが詰まっている気がしました。

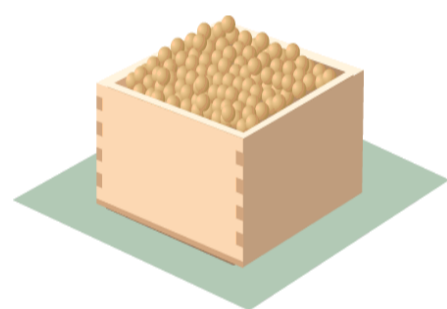


そして、その時ふと、「“諦(あきら)め”は、“明(あき)らめ”とも言うんやで。」という恩師の言葉を思い出しました。

絶望感に襲われた時、ものの見方を変えることで、光が差す経験をされたことはあるでしょうか。

講演を聴かれた保護者から、「肩の力が抜けました。」「私はダメな母だと思ってしまうことが多いですが、今日ここへ来て少し心が軽くなりました。」「家に帰ったらまず子どもを褒めます。笑顔で我が子を迎えます。」といった感想が多く寄せられました。とともに、日々迷い悩みながらも、責任を持って一生懸命に子育てをされている多くの保護者がいることを、講演中、メモを熱心にとりながら話を聴かれるお姿や講演後の感想から改めて感じました。

そんな保護者に寄り添い、力になれる教職員でありたいと、気持ちをより強くした1日でもありました。



2・3月の教職員研修予定



講座名	番号	研修テーマ・講師名・概要等	会場	日時	対象
キャリアアップ研修に	初任者研修 フレッシュ研修	41 「学級経営の実際・2年目に向けて」〈閉講式〉	教育センター 研修室他 (2階)	3月27日(月) 14:00～17:00	小・中学校初任者 新規採用養護教諭 新規採用栄養教諭 新規採用事務職員 新規採用幼稚園教員
	スクールリーダーA (首席)	83 「学校と家庭・地域をつなぐ福祉教育 ～学校と家庭・地域が協働していく視点から学ぶ～」 講師 大阪教育大学 准教授 新崎 国広	教育センター 視聴覚室 (2階)	2月14日(火) 15:30～17:00	首席
	ステップアップ研修 I	59 「実践交流会と1年間の自己評価」	教育センター 研修室 (2階)	2月13日(月) 15:45～17:00	ステップアップ研修 I 受講者
教育特別支援研修	特別支援教育研修	220 特別支援教育コーディネータ研修(選択研修⑩) 「物語文授業におけるユニバーサルデザイン」 講師 関西学院初等部 教諭 野村 真一	岸部第一小学校	2月21日(火) 14:45～17:00	教職員 (登録者申込不要) ※授業づくり研修【133】 を兼ねる
教科・領域別研修	授業づくり研修	133 スーパーティーチャーに学ぶ③国語 「物語文授業におけるユニバーサルデザイン」 講師 関西学院初等部 教諭 野村 真一	岸部第一小学校	2月21日(火) 14:45～17:00	教職員 特別支援教育コーディネータ 研修(選択研修⑩)を兼ねる



2・3月のさつきらるーむ(初任者教員等相談室)は、
2/9(木)、14(火)、3/9(木)、14(火)です。
申込は、教育センターまで(校務なびSA@メッセージ又は研修申し込みシステムにて)



※各講座の詳細は、各学校に送付する実施要項をご覧ください。

ステップアップ研修「授業づくり③」

中学校ステップアップ研修Ⅰ・Ⅱ（合同研修）において、「授業づくり③」（代表者による公開授業と研究協議）を実施しました。その様子を報告します。

1月23日（月）柴田 伊織 教諭 第六中学校

1年生 英語科 Program9「比較級」

「子どもの意欲を引き出すための授業づくり」をテーマに、子どもの主体的な活動を中心とし、仲間同士でコミュニケーションを図ることの楽しさを味わうことをねらいとした授業でした。

All English でテンポ良く進めながら、帯学習を上手に活用し、限られた時間の中でも生徒の活動量が確保されていました。また、相手を変えてのペアワークやパワーポイント等の視覚支援、活動時間を細かく区切っためりはりのある授業展開により、生徒が飽きることなく、意欲的に学習に参加する姿が見られました。

研究協議では、「スモールステップを踏んでいく学習活動が行われているか。」「子どもたちが互いに協力しながら、活動や課題に対して積極的に取り組もうとしているか。」「言語活動をとおして、子どもたちがコミュニケーションを図る楽しさや、課題を達成する喜びを味わうことができたか。」の3点について、活発な意見交流が行われました。また、テンポについていくことが難しい生徒への具体的な支援の手立てについても話題となりました。指導助言者である杉山奈津子指導主事からは、「授業の流れや見通しを黒板の端に少し提示するだけでも、生徒の安心感が違う。また、テンポ良く進めるだけでなく、時には生徒の様子を見ながら大事なところでペースを落としたり、声のトーンを変えたりすることで、よりいっそう生徒の注意が引きつけられる。」など、どの教科の学習においても共通する手立てについてお話をいただきました。



「PDCA」ならぬ「PCQA?!」 ～新・情報システムに関するQ&A～

前号でお知らせした新・情報システムについて、ご質問をいただきましたので、その一部をご紹介します。

Q1：校務支援システムとはどんなシステムですか？

A1：現在の「児童名簿ファイル」の機能を含め、出欠・成績・保健等の管理機能がパッケージされた全校共通のシステムで、パソコン端末を用いて運用管理するシステムです。

Q2：新しく導入されるパソコンや校務支援システムの使い方はレクチャーされるのですか？

A2：導入までの間に複数回にわたって研修を実施します。導入後は、原則として、月2回程度（5年間）全校にICT支援員を派遣し、基礎・基本的な操作方法からICT機器を活用した授業方法等まで、一人ひとりの力量やニーズに応える支援を行います。

Q3：小学校低学年の児童がタブレット型パソコンとして扱うときに落としたりしませんか？

A3：パソコンにカバーを施し、誤ってのパソコン落下を防止するストラップが標準装備となる予定です。

【センター所長のつぶやき日記⑦】

私は校長として卒業証書授与式を2回挙行了しました。年間を通じて校長名の賞状を発行する機会はありませんでしたが、卒業証書を授与するために行う式典の中で、自分自身の記名がある証書を読み上げることは、あらためて職責の重さを実感（自覚）する機会となりました。また、式辞に盛り込む内容（言葉）で必須としたのは、「教職員は校長の誇り、生徒は地域の宝」という思いと、「卒業後に中学校の頃が一番良かったと嘆くのではなく、『今が一番いい』と常に思える生き方を」という願いです。“中1ギャップ”という言葉で入学時の段差が語られることもしばしばありますが、卒業時の目に見えない段差も、乗り越え方によっては、その後の人生を左右することになります。式場に入場する時は「3年生」だった生徒が、式場から退場する時は「卒業生」になる。卒業証書を受け取ったその時から「学校を支援する側（者）」になるわけです。ここ数年、桜の開花時期は式典の演出として理想的な時期から外れ、時候の挨拶や季節の言葉に四苦八苦している校園長先生も多くおられると思います。桜に囲まれた校舎・校庭の華やかさとともに、学びと育ちが形となる季節がまた巡ってきます。

初任者研修「小中一貫教育について」

初任者研修では、「小中一貫教育について学ぶ」というテーマで、新規採用幼稚園教員と中学校初任者教員が小学校の授業を、そして、小学校初任者教員が中学校の授業を参観した後、千里みらい夢学園の取組について学びました。その様子を報告します。

1月17日(火) 名越 尚美 教諭 高野台小学校 4年生 道徳 「二人のひふみちゃん」

「いじめについて自分ができていることを考える」ことを主題に、新聞の投書を資料として活用した道徳の授業。授業規律が整った環境で、児童の活動量がしっかりと確保されている内容でした。児童が積極的に手を挙げて、自分の意見を発表する場面が多く、学級の普段からの様子が伝わってきました。



研究協議では、教材活用の工夫も含めた授業の準備を中心に、中学校でも取り入れられそうな手立てや、児童が安心して発言できる雰囲気づくりについて意見交流が行われました。授業者である名越教諭の「普段からアンテナをしっかりと張って、自分が心動かされたものを教材にしてほしい。授業にける授業者の思いがないと、子どもには伝わらない。」という言葉、受講者は全員真剣な表情で聞き入っていました。

後半では、小中一貫教育について、千里みらい夢学園の副学園長である桃山台小学校の西田智子校長からお話を聞きました。「教師という、せつかくこの素晴らしい仕事に就いたのだから、志を高く持ち続けてほしい。」という言葉が深く心に残る講話でした。

1月19日(木) 久門 淳子 教諭 竹見台中学校 3年生 英語科 My Project8「日本文化を紹介しよう」

義務教育の集大成ともいうべき、中学3年生の授業を参観しました。生徒がグループに分かれ、自分たちで選んだ「日本の文化」についてお互いに討論する授業でした。漫画、和菓子、カラオケとテーマは様々。ジャッジも生徒が行い、最後はポイントの高かったグループの対決を見ました。どのグループも協力しながら、頑張る姿に、受講者から驚きの声が上がっていました。



研究協議では、生徒の主体的な学びを引き出すための場の設定や、授業者のねらいに近づくための様々な手立てとステップについて意見が出ました。授業者である久門教諭の「話すことが苦手な生徒も、調べ学習や資料作成で活躍している。お互いを補い合えるところがグループワークの良さである。」という言葉は、小学校の学習にもあてはまるものでした。

後半は、千里みらい夢学園の副学園長である竹見台中学校の朝田秀俊校長からお話を聞きました。6年生の金曜日登校や小小連携など、千里みらい夢学園の様々な取組みについて初めて知ったという受講者が多く、アンケートでは「千里みらい夢学園の子どもがうらやましい。」という感想もありました。

1月24日(火) 秋山 律子 教諭 山田東中学校 1年生 音楽科
「詩の内容と曲想との関わりを感じとろう」

F.シューベルトの歌曲「魔王」を教材にした鑑賞の授業。あえて曲は流さず、詩の朗読のみを手がかりに、曲に対するイメージを各自で持つことが授業のねらいでした。自分が感じたイメージを言語化し、それを班の中で交流するためのシンキングツールとしてクラゲチャートを活用するという、画期的な手法が取り入れられていました。



研究協議では、生徒が考えなくなる発問や、個で、班で、全体でといっためりめりのある学習活動の設定について、意見が交わされました。特にクラゲチャートについては、「是非自分の授業でも活用してみたい。」という声が多く出ました。さらに、授業者の秋山教諭からは、普段から生徒一人ひとりと関係をつくることの大切さについて、初任者教員にとって示唆に富んだお話を聞くことができました。

後半の講話では、千里みらい夢学園の学園長である千里たけみ小学校の森島研次校長からお話を聞きました。森島校長の「人が人を育てる。」「子どもができる瞬間に立ち会えるのは教師だからこそ。」という言葉に、研修会場全体が温かい雰囲気になりました。